

# COLOUR SPICE

## ターナーカラースパイス

DIYビギナーからベテランまで

ターナー商品を体験できるショールームです。デザイン塗装や空間デザイン施工などお気軽にご相談ください。



東京都台東区上野5-9-4  
2k540 AKI-OKA ARTISAN  
B-3  
Tel.03-3832-5850  
11:00~19:00  
定休日：水曜  
(祝日の場合は開館)

# TURNER GALLERY

若い才能を応援する

## ターナーギャラリー

ジャンルや表現手段、既成概念にこだわらないアート作品の発表として、充実の展示スペースとリーズナブルな料金で利用できるギャラリーです。毎月多くのイベントが開催されています。



## SNS公式アカウント

### X (旧Twitter)

総合情報



TurnerColour\_jp

模型情報



turnerhobby

透明水彩情報



turner\_water

### Instagram

アート情報



turnercolour\_official

ペイント情報



turners\_milkpaint\_official

### YouTube

総合動画



TURNER COLOUR STUDIO

取扱い店



明日の色をつくる……

ターナー色彩株式会社

<https://www.turner.co.jp>

〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2-15-7 Tel.06-6308-1212 Fax.06-6305-3018

〒171-0052 東京都豊島区南長崎6-1-3 Tel.03-3953-5161 Fax.03-3953-5153

●このカタログの内容は、2025年5月現在のものです。変更することがありますので、ご了承ください。 PT-1  
●印刷色のため色調などは多少異なることがあります。 ©TURNER COLOUR WORKS LTD. All Rights Reserved



ターナー色彩  
ホームページ



TURNER COLOUR WORKS LTD.

# PAINTING TECHNIQUES GUIDE

## 静岡ホビーショー2025

### ターナー色彩 水性アクリル絵具 模型塗装テクニックガイド



## 模型塗装で威力を発揮する、高い発色、隠蔽性、速乾性

## 美しい透明性と光沢感、レイヤーで広がる表現力



### ACRYL GOUACHE

アクリルガッシュ

アクリルガッシュはプラスチック素材にも強い接着力を持った水性アクリル塗料（絵具）です。希釈と洗浄は水で可能、また、溶剤を含んでおりませんので、高い安全性を有しています。仕上がりはフラットで隠ぺい力も高く、筆塗りからエアブラシまであらゆる塗装表現に適しています。

#### 全223色

11ml 20ml  
40ml 100ml

ツヤ消し

アクリルガッシュ  
テクスチャーズームサイト

アクリルガッシュ全色の  
質感をチェックできます。



#### 単色価格

| サイズ                          |         | 価格(税込) |
|------------------------------|---------|--------|
| 11ml (37色)                   | A色 29色  | ¥154   |
|                              | B色 8色   | ¥220   |
| 20ml (221色)                  | A色 155色 | ¥319   |
|                              | B色 66色  | ¥451   |
| 40ml (83色)<br>※X99 ブラックホール含む | A色 60色  | ¥583   |
|                              | B色 22色  | ¥880   |
| 100ml (24色)                  |         | ¥1,210 |

※2025年5月現在

### U-35 ACRYLICS

U-35 アクリリックス

U-35アクリリックスは、水性アクリル塗料（絵具）です。アクリルガッシュと同様に希釈、洗浄は水で可能、プラスチック素材にも強い接着力を持っています。仕上がりは透明性（※）、発色ともに高く、また厚塗りすることも可能ですので、ハイライトや陰色を重ね塗っていくことで作品がリアルな質感に仕上がります。

※不透明色、半透明色もラインアップしています。

#### 全81色

11ml 20ml 60ml  
ツヤ消し  
半ツヤ  
ツヤあり



カラーチャートは  
こちら

#### 単色価格

| サイズ        |        | 価格(税込) |
|------------|--------|--------|
| 11ml (18色) | A色 18色 | ¥143   |
|            | A色 29色 | ¥297   |
| 20ml (81色) | B色 15色 | ¥297   |
|            | C色 18色 | ¥429   |
|            | D色 19色 | ¥429   |
|            | A色 29色 | ¥429   |
| 60ml (81色) | B色 15色 | ¥605   |
|            | C色 18色 | ¥781   |
|            | D色 19色 | ¥968   |
|            | A色 29色 | ¥968   |

※2025年5月現在

#### アクリルガッシュ



##### 透明性

##### 高い隠ぺい力

隠ぺい力が高く、下の色を覆い隠すことができ、ベースカラーに適しています。

#### U-35 アクリリックス



##### 透明性

##### 美しい透明性

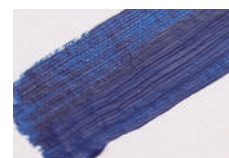
透け感を活かした塗り方もできます。色によって「透明」「半不透明」「不透明」など異なります。



##### ツヤ感

##### フラットな仕上がり

普通色は鮮やかな発色で不透明なツヤ消しに仕上がります。



##### ツヤ感

##### 質感あふれたツヤ

鮮やかで深みのある発色で美しい光沢感があります。色によって「ツヤあり」「半ツヤあり」「ツヤ消し」など異なります。



# 塗装の基本の流れ

以下に示すのは水性アクリルを用いたペイントについて基本的な工程である。後のページに記載していく技法は各工程を仕上げていく方法論であり、ここに示す工程こそが作品の仕上げについて基本的な構造と考えてもらいたい。これから伝える各技法では、必ずきちんと乾燥させることが大切だ。これを怠ると最初に塗った色が持ち上がり、濁りの原因となり汚いものになってしまう。

## 1. ベースペイント

### BASE PAINT

基礎となる色の塗装。このベースペイントに他の工程を加えていくため、もっとも大事な工程とも言える。基礎となる下地をこの時点でしっかり発色させたり、仕上げておくことで方向性を定める。下地の色を十分に覆い隠す場合には二度塗り、三度塗りが必要だが、あえて下地を活かす場合には水、リターダーやメディウムで薄めるなどして調子をつけてもよいだろう。最終的にコートすることでツヤを整えることが多いため、ベースの時点ではツヤはあまり気にしなくてもいい。



## 2. シャドー

※それぞれの表現に適した技法を用いる。主にウォッシュ技法。

### SHADOW

全体の形や表面の形状を強調する為、意図的に影や暗さを表現する、文字通り「陰色」をつける塗装工程である。この工程により作品の形状が強調され、印象がグッと引き締まる。また、作品が自然な雰囲気に見えるため、特に抑えておきたい。シャドーではベースペイントで使用した色よりも暗い色を使用することになるが、安易に黒を使用すると色が濁ってしまう事から深色系やアンバー系などをベース色に、少量ずつ混色して調整し、色の差があまりキツくならず、きれいな影色を作ることが大事だ。



## 3. ハイライト

※それぞれの表現に適した技法を用いる。主にドライブラシ技法。

### HIGHLIGHT

全体の形や表面の形状を強調するために明るい部分やエッジを塗装で表現する工程。ベースに近似した色に白やレモンで調色したものを重ね塗る。あまり明るい色を使ってしまうと、色飛びした印象になってしまうので、パレット上で混色し違和感のない色調に整える。塗料は乾くと、濡れている時よりも明るくなるので、パレットの上で一度乾いた色を確認しておきたい。シャドーが濃ければハイライトも濃く、シャドーが薄ければハイライトも薄く、といったように、全体のバランスを整える。



# テクニックガイドの使い方

1 参考にしたい技法を見つけ、完成形を確認しよう！

2 塗り方の手順を確認しよう！

3 QRコードの動画で詳しい塗り方を確認しよう！

4 実際に塗ってみよう！



技法監修  
村尾ゴジラ

ホビー誌で1980年代から活躍するベテランモデラー。怪獣や特撮メカなど現在も多くの作例を手掛ける。



YAMADA  
Design your life-style.

キット協力 山田化学株式会社

100円ショップの店頭に並ぶランチボックスや保存容器、ドリンクボトルなど家庭日用品を扱い、本誌で紹介するミニチュア製品も多数展開している。



## 基本の道具



使用する絵具の他に

- ① 筆洗
- ② ③ 絵具を溶く絵皿やパレット
- ④ 筆を拭くぞうきん
- ⑤ 筆(面相筆・彩色筆・平筆) などを用意します。

使い捨て可能なペーパーパレットが超便利





ウォッシュとは、水で薄めた塗料と水スプレーの吹き付けで、錆汁の垂れなど自然な変化をつけていく技法である。模型のペイントではウォッシングと呼ばれることもある。非常に多用される技法なのでぜひ抑えておきたい。全体に施すかランダムにピンポイントで施すかで効果も異なってくるので、その偶然性も表現に盛り込める。基本は完全乾燥してから次の工程に行くことが重要となる。

## 使用する色の一例

■ アクリルガッシュ  
ローアンバー  
■ アクリルガッシュ  
パーマネントオレンジ

etc...



① 塗料をパレットや絵皿にとり、水を加えて十分にかき混ぜる。この際、薄めすぎてしまうとウォッシュの効果が得られないため、加える割合には注意しよう。



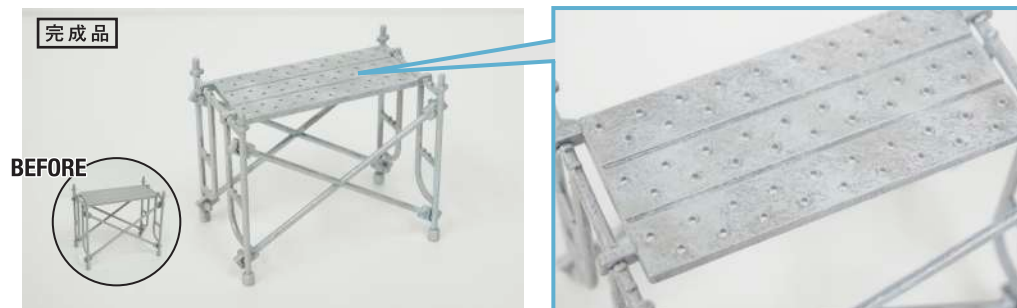
② 塗装する面全体にスプレーで水を均一に吹きかける。ムラになってしまった箇所があれば筆をストロークし馴染ませる。



③ ①で薄めた塗料を筆に取り、端から塗料を塗っていく。塗った後に塗料のついていない筆で軽くなでるとさらに馴染みやすい。



④ 乾燥途中でポイントを絞って水を吹いたり、水を含ませた筆でなぞることで自然な変化をつけることもできるが、先に塗った塗料が乾燥しないうちに繰り返すと濁りやムラになるので注意。



ドライブラシとは、乾いた筆に塗料をつけ、筆の腹で対象物のエッジや凸部をはらってハイライトを施していく技法である。形状が強調される効果のほか、マテリアル感も演出できる。道具立ても少なく、非常に手軽に実践できるため、ウォッシュと併せれば比較的容易に基本工程をクリアすることができるだろう。漠然と施すと全体的にボヤけた印象となるので注意しておきたい。

## 使用する色の一例

■ アクリルガッシュ  
ホワイト  
■ アクリルガッシュ  
ブルシアンプルー(ヒュー)

etc...



① 乾いた筆の穂先2/3程度に塗料を含ませて、パレットの空いたところを使い、余分な塗料を落とす。ウエスで穂を優しく押さえて、さらに塗料を落としておく。



② エッジや凸部に垂直になるよう筆先ではらう。はじめは弱いストロークで、徐々に筆圧を高めるように心がければ塗りすぎも防げる。



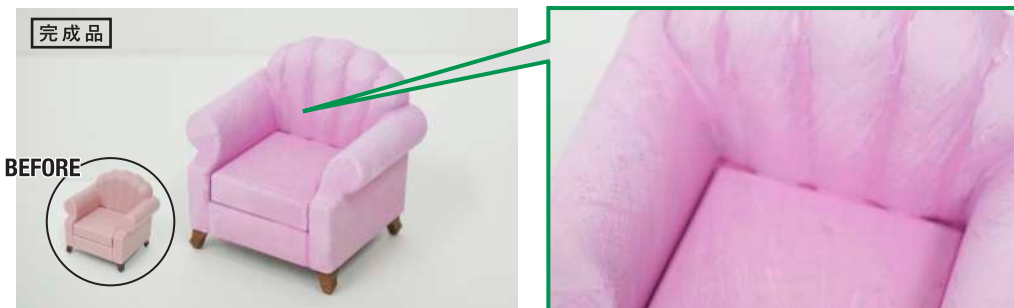
③ 全体のバランスを見ながら、全体的にドライブラシしていく。あまり均一になると、いかにも塗ったように見えてしまう。あくまで自然になるように。



④ シャドウの効果が薄れていけば、再びウォッシュして全体を再度整えていく。ウォッシュもドライブラシもやりすぎないようにしておけば、調整も容易だ。

WET BRUSH  
ウェットブラシ

MOVIE



ウェットブラシとは塗装面をスプレーを使って水で湿らせ、乾かない間に塗装する技法である。ウォッシュとは異なり、こちらはやわらかなハイライトをつけるために施す。パレット上に明るめの色を2〜3色準備して、塗料は原液か、水を加えても少量に留めておき、「塗り上げる」イメージで塗装すれば自然な仕上がりとなる。ベース色に色味の変化を持たせることでより立体的な色味の変化を表現できる。

## 使用する色の一例

|  |                  |  |                    |
|--|------------------|--|--------------------|
|  | アクリルガッシュ<br>ホワイト |  | アクリルガッシュ<br>ローズピンク |
|  | アクリルガッシュ<br>カーミン |  | etc...             |



① 対象物に水をスプレーで均一に吹いていく。この際に水を吹き付けすぎた箇所は塗料のついていない筆をストロークして馴染ませておく。



② 各色ごとの筆に適量塗料をつける。穂に含ませすぎたしまうとコントロールが難しくなってしまう。その場合にはパレットの空いている箇所、余分を落としてやる。



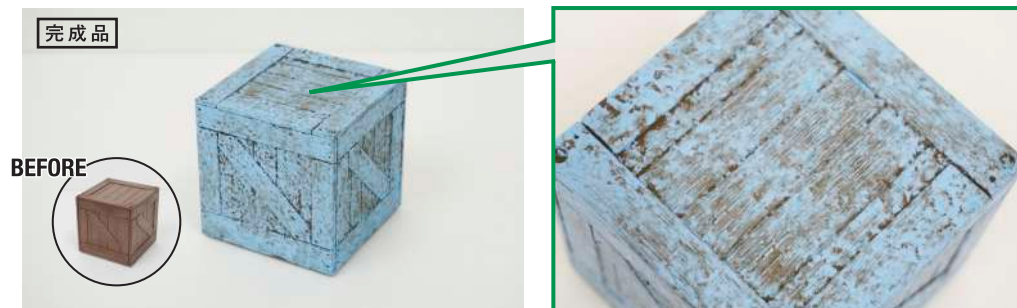
③ 対象物が乾かないうちに塗装する。2〜3本の筆を柔らかにストロークして強調したい箇所の色を置いていく。



④ 下地に対して浮いてしまったら、塗料をぬぐった筆で境界を撫でれば落ち着いていく。慣れるまでは2色の変化で表現方法を見出し、どんどん色数を増やしてほしい。

SPONGING  
スポンジング

MOVIE



スポンジングとは、文字通りスポンジに塗料をつけ対象物を叩くように塗っていく技法である。ベタ塗りからエイジング（ウェザリング）まで幅広い表現に用いることができるが、漠然と行くと、ベタ塗りに留まってしまう。スポンジの角を使うか面を使うか、塗料を含ませる量や、水で薄める割合など幅があるだけに、様々な表現を試行してもらいたい。

## 使用する色の一例

|  |                      |  |                      |
|--|----------------------|--|----------------------|
|  | アクリルガッシュ<br>オリーブグリーン |  | アクリルガッシュ<br>バーントアンバー |
|  | アクリルガッシュ<br>アヤナミブルー  |  | etc...               |



① 今回はスポンジングによるチッピングを施す。剥がれた際に露出するイメージの色の塗料をベースとして塗る。



② スポンジに塗料を含ませる。この際に含ませすぎた場合には、パレットの空いている箇所、塗料を落とす。



③ スポンジをつまんだり、角を使って対象物を軽く叩くように塗る。一度に塗りすぎず、塗っては全体の調子を見て、を繰り返す。



④ 前に塗った色を活かすように、剥がれた箇所が広がるイメージで色を置く。2色程度使うとより自然な仕上がり演出することができるだろう。

BLOCK AGEING  
ブロックエイジング

MOVIE

完成品

BEFORE



ブロックエイジングとは塗装面が古くなりはがれている状態を表現する技法である。元は木片やスチロール片を用いたためこう呼ばれているが、模型用語としてはチッピングやハゲチョロという言葉が馴染みあるだろう。作品の古さを演出することで、よりリアリティのある表現が可能となるが、やりすぎてしまうと不自然になる。本物の剥げを観察するなどして、普段からセンスを磨いておきたい。

## 使用する色の一例

|                       |                                    |
|-----------------------|------------------------------------|
| ■ アクリルガッシュ<br>オリブグリーン | ■ アクリルガッシュ<br>セピア                  |
| ■ アクリルガッシュ<br>ローズピンク  | ■ U-35アクリリクス<br>パーントアンバー<br>etc... |



① 塗装が剥がれた際に露出するであろうイメージの色をパレットに取る。木部ならば木の生の色、鉄鋼ならば茶褐色など、素材ごとで楽しみながら検討したい。



② 割りばしに塗料を付着させる。筆とは異なり、塗料が拭いづらいため、一度適量含ませたらパレットの空いている箇所まで塩梅を整える。



③ 塗料を含ませた割りばしを上下左右に引っ張って塗料を乗せていく。ストロークしたり、置いていったりと、塗り方を使い分けながら塗っていく。



④ 全体を観察しつつ、本物であれば剥がれやすくなってしまふ場所を考えながらブロックエイジングしていく。

SCUMBLE  
スキャンブル

MOVIE

完成品

BEFORE



スキャンブルとは、ぼかし塗りのことで、下塗りの色が所々に見えるように半透明～不透明な明るい色を全体的に施し、ベース、ハイライト、シャドーの色のコントラストを弱めに調整していく技法である。明るめのハイライトとは異なり、ピンポイントに直接的に明るくするのはなく全体的な明度調整して自然な風合いを表現する。

## 使用する色の一例

|                        |                                        |
|------------------------|----------------------------------------|
| ■ アクリルガッシュ<br>パーントアンバー | ■ アクリルガッシュ<br>パーマネットオレンジ               |
| ■ U-35アクリリクス<br>ローアンバー | ■ U-35アクリリクス<br>アンブリーチドチタニウム<br>etc... |



① 塗装面に水をスプレーで均一に吹きかけて湿らせる。ウォッシュの際と同様にムラが出ないように一度筆で流すなどして全体的に馴染ませる。



② 水で希釈した塗料でウォッシュする。コントラストを調整したい面全体に塗り上げ、乾く前に筆で調整していく。



③ 上下左右と筆をストロークして、自然な風合いをつけていく。塗料の乗り具合にも意図的なムラを残し、全体的な見え方をぼかしていくイメージで塗り広げる。



④ 一度で発色させようとせず、ぼかしが足りなければ乾いた後に再度塗り重ねていく。塗る度に全体的な見え方を確認して進める。